

# 2011年春に巣立った卒業生を祝う

## 新校友を励ます会を開催



10月23日(日)に行われた第49回ホームカミングデーにおいて、東日本大震災の影響により卒業式が中止となった新校友の新しい門出を改めて祝す「新校友を励ます会」を開催しました。当日は約120名の新校友の皆さんにご参加いただきました。吉岡総長・田尾校友会長から新校友へメッセージが送られ、新校友を代表して、現代心理学部映像身体学科の卒業制作でドキュメンタリー映画「ちづる」を制作した赤崎正和氏(平23映)が、大学時代に出会った様々な人々への感謝の気持ちを強く語られました。4月から新しい生活をスタートさせた新校友の皆さんも、決意を新たにしたいに違いありません。

## 奨励の辞

2011年10月23日  
立教大学総長 吉岡 知哉

皆さん、こんにちは。4月からの新しい生活はいかがでしょう。この春、卒業式は3月24日、25日に予定されていましたが、震災直後の混乱の中で中止せざるを得ませんでした。インターネットでメッセージの映像配信を行いました。皆さんを送り出す式典を行うことができなかったことも、私たちが今でもとても残念に思っています。本日、このような形で皆さんに直接話をする機会を得たことを、大変うれしく思っています。

3月11日の東日本大震災から7ヶ月あまり、4月からの新学期を、ひと月遅らせて開始した立教大学も、夏休みを経て、現在は平常通り、後期の授業を展開しています。東日本大震災と原発事故、そしてその後の社会の状況は、私たちに、自然と文明の関係、科学技術や情報革命の進歩の意味、政治社会のあり方など、根源的な問題を突きつけました。しかし、実はそれらの問題の多くは、以前から指摘され続けてきたものであり、3・11によつて生じたというよりも、既にあつたものがあらわになったと言ふべきなのです。

このような諸問題に、知性の府である大学がこれまで十分に対応できていなかったことは明らかです。また、3・11以後の多くの学者や専門家、あるいは著名大学出身の政治家たちの言動は、日本の高等教育に対する信頼を深く傷つけました。これまで述べてきたことですが、このような事態を、私は大学人として、深刻に受け止めなければならぬと考えています。

私たちが現在生きていく社会は、「3・11以後」であるのと同じように、「9・11以後」、あるいは「リーマンショック以後」でもあります。現在直面している、情報テクノロジーの高度化やグローバル化の進展といった「21世紀の問題」に対して、私たちは、その変化の速度に対応し得るだけの能力と同時に、知識や技術が「人類の現在と未来」に対して持つ意味について、問いを發する力を持たなければなりません。それは、研究者の倫理であると同時に、市民一人ひとりが身につけるべき叡智です。

震災直後からの状況は、さまざまな情報や意見が錯綜する中で、自分で考え判断することの大切さを浮き彫りにしました。近年、特にその重要性が指摘される「教養」あるいは「リベラルアーツ」は、そのための基礎をなす知識の体系に他なりません。立教大学は、創立当初

から、この意味での「リベラルアーツ」を大切にしてきました。もちろん、「リベラルアーツ」の内容は時代とともに変わります。現代の「リベラルアーツ」は、専門的な知識と切り離しては存在し得ません。立教大学では「専門性にあつた教養人」という言い方をしていますが、卒業生の皆さんがそれぞれの出身学部で学んだ知識は、教養を支える中心部分を形作っています。皆さん自身がどれだけ自覚されているかはわかりませんが、立教大学で学んだことで、皆さんは現代社会を生きていくための基本的な能力は既に十分身につけているのです。

新しい社会生活を始めて半年。皆さんは今、その新しさに慣れることで懸命だろうと思います。経験したことのない環境の中で、学生時代とは質においても量においても異なるさまざまな知識を、身につける努力をされているに違いありません。そんな今の皆さんにとって、「リベラルアーツ」とか「教養」とかは、あまりピンと来ないでしょうし、それは当然のことだと思います。けれども、立教大学での学生生活の間に、「リベラルアーツ」の思想は、皆さんの思考方法や振る舞い方の中に、深く刻まれていることは間違いありません。



私は初めに、今日このような形でこの3月に卒業された皆さんにお会いできたことの喜びを述べました。しかし同時に、気持ちのどこかで、既に立教大学を後にして、自分の道を歩み始めている皆さんに、いわば背中から声をかけることに対するためらいがあることも事実です。立教大学のこととはざらりと忘れてしまつていい。少なくとも今は、自分の現在に集中してほしい。そのようにも思うのです。

それでも皆さんは、いつか何かの時に、自分が立教で身につけた、かけがえのないものを、発見することになるでしょう。そんな時、肩越しに後ろを振り返ってみてください。皆さんの活躍に心から期待しています。どうぞ凛と胸を張って、自らの歩みを進めてください。

## 被災地に向かうボランティア学生へご援助を!!

「災害ボランティア活動支援のため」の指定寄付をお願いします。

立教大学では、東日本大震災で被災した方々を支援するために、4月末に「東日本大震災に伴う立教大学復興支援活動指針」を策定し、学部・研究科における教育・研究・社会貢献分野における支援活動を促進してまいりました。また、同時に「立教大学東日本大震災復興支援本部」を設置し、本部企画としての重点地域と設定させていただいた陸前高田市において、夏季、秋季の休みを利用して学生によるボランティア活動を実施し、延べ25日、合計87名の学生が参加しました。



▲夏季陸前高田ボランティアの様子(第3クール)

今後、被災地で求められる活動に、仮設住宅での高齢者支援や子ども支援の活動があります。これらの活動の担い手として、大学生が期待されています。しかしながら被災地は遠距離にあるため、学生にとっては交通費や宿泊費が大きな負担となつていきます。そこで、「立教未来計画」募金のお申し込み・お支払い方法

◆所定の払込取扱票を使用される場合  
「立教未来計画募金ニュース」同封の払込取扱票を使用してお振込みください(払込取扱票裏面記載の払込取扱機関から振り込んだ場合、払込手数料は無料です)。お手元がない場合は、お送りしますので立教学院募金室(☎03-39854857)宛にご一報ください。

◆インターネット募金を利用される場合  
下記URLをご参照ください。  
http://gifu.rikkyo.ac.jp/bokin\_index.html

◆立教学院募金室へ直接持参される場合  
募金室(池袋キャンパス学院事務棟地下1階)の窓口で受け付けております。  
※右記のボランティア学生をご援助いただける場合は「災害ボランティア活動支援のため」と指定してください。その他、「被災した学生・大学院生の奨学支援」の指定寄付も引き続き受け付けております。

## 「立教カード」会員募集中!!

～立教カードは大学への思いがこもったカードです～  
カード会社から支払われる入会手数料や還元金を学生の奨学金、各種教育活動の援助として有益に活用しています。  
学生支援のためにもぜひ「立教カード」へご入会ください!

★三井住友カード  
★りそなカード  
初年度年会費無料  
キャンペーン実施中!  
(ゴールドカード、JCBカードは除く)



## 立教独自のサービスをご提供

- ◆校友の皆様のご協力によるご優待多数(提携協力店で立教カード独自の各種サービスをご提供)
- ◆聖路加国際病院付属クリニック1日人間ドック割引
- ◆立教大学図書館の利用
- ◆ご結婚記念オルゴールプレゼント
- ◆各種抽選プレゼント(「東京六大学野球特別招待証」「JTB旅行券」など各種プレゼントを実施。応募時期、詳細はホームページをご覧ください。)

## JCBカード募集再開しました

2011年12月より「立教JCBカード」の新規会員募集を再開いたしました。この機会にぜひ「立教JCBカード」へご入会ください。入会申込書の送付をご希望の方は、下記連絡先までお問い合わせください。

## 会員向けプレゼント情報

2012年1月31日(火)～3月12日(月)まで  
「東京六大学野球春季リーグ特別招待証プレゼント」  
キャンペーン中!

応募詳細はホームページをご覧ください

## 立教学院 立教カード事務局

〒171-0021 東京都豊島区西池袋5-10-5  
セントポールプラザ3F(池袋キャンパス正門前)  
営業時間: 平日10:00～15:00  
TEL:03-3985-2968 Email:rikkyo\_card@grp.rikkyo.ne.jp  
URL:http://www.rikkyo.ac.jp/rikkyocard/

立教カード